

(様式1)

自 己 評 価 表

(愛媛県立小松高等学校)

学校番号(11)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
○自ら考え、行動できる力 ○他者を尊敬ある存在として尊重しあい、協働できる力 ○課題の発見とその解決のための筋道を思考・判断できる力 ○「積微力行」の精神で、粘り強く努力できる力 〈普通科〉 ○豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる力 〈家庭科〉 ○地域の生活産業や少子・高齢社会の福祉ニーズを支えることができる力	○1学年では、共通の科目を学習し、個々の総合的な適性を伸ばすための基礎力を身に付けます。 ○ICTの効果的な活用や習熟度別講座・少人数指導により、基礎・基本を重視した分かる授業を展開します。 ○授業において、主体的に考える場面や他者と協働して課題解決を図る場面を設定し、思考力・判断力・表現力を育成します。 ○生徒主体の学校行事や部活動、生徒会・委員会活動、ボランティア活動を充実させ、豊かな人間性を育みます。 〈普通科〉 ○2学年以降では、進路希望にあったコース(文理探究・キャリア探究)を選択して、興味・関心の高い分野の科目をじっくり学び、進路実現に向けた実践力を身に付けます。 ○個に応じたキャリア教育を充実させ、進路実現を図ります。 〈家庭科〉 ○2学年以降では、進路希望にあったコース(ライフデザインコース・ヒューマンサービスコース)を選択し、実践的・体験的な学習を通して専門的な知識や技術を確実に身に付けます。 ○家庭科技術検定、介護職員初任者研修、地域との連携・交流を通じた実践的な学習活動の充実を図り、専門性を高めます。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上 A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった	B	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、76%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、15%が「どちらとも言えない」、9%が「あまり成長していない」「成長していない」という否定的な評価をしている。	・探究学習の指導法の工夫・改善、生徒主体の学校行事や部活動、持続可能なボランティア活動等を推進することにより、グラデュエーションポリシーに沿った生徒の成長を促す。
学習指導	家庭学習の充実	一定時間機に向かう習慣が定着するよう、各教科でICT活用など課題の工夫や個に応じた指導を行うとともに、各HR・学年で学習への意識高揚を図り、1日2時間以上の家庭学習時間を目指す。 A:2時間以上、B:1.5～2時間、C:1～1.5時間 D:0.5～1時間、E:0.5時間未満	B	調査発表期間の平日では、2時間以上学習できたのは1、2年生が25%程度で3年生は35%程度である。休日は、全学年70%以上の生徒が達成している。休日に4時間以上学習している生徒が全学年30%程度おり、昨年度と比べると特に3年生の割合が増加した。	・家庭学習時間確保のため、ICTを活用した課題の出し方を工夫し、生徒の意欲向上にもつなげる。個に応じた予習・復習の方法を指導するなど、調査発表期間以外の家庭学習時間の増加を図る。
	教科指導力の充実	教科内及び教科間の情報交換や学習評価に関する研究を継続・発展させ、ICT活用などにより主体的・対話的で深い学びとなるよう授業の満足度や学習意欲を高め、授業の改善を進める。 全員がICTの活用を研究、実践し、有効活用に取り組む。	A	生徒の授業評価アンケートの全教科平均は6月、11月共に、5点満点中、4.8で高評価であった。「教科会等で授業力向上への情報交換や研究に努めている」は、昨年度の85%から92%へ増加した。ICTの活用については、教員の95%が有効活用に取り組むことができている。	・教科内及び教科を横断しての情報交換や研究を継続し、満足度を更に高める。Teamsやロイロノート等のICTを活用した研究を進め、生成AIを効果的に活用できるような研修会を実施し、指導力の向上を目指す。
	教科指導力の充実	校内研究授業や相互参観授業で、年間4回以上授業を参観して、教科会や学年会などの研修も踏まえて授業力向上に努める。 A:4回以上、B:3回、C:2回 D:1回、E:0回	A	校内研究授業では、どの教員もすばらしい授業を行っていた。授業研究会でも、活発な議論をし、授業力向上に努めた。校内研究授業をあと2回残しているが、授業参観平均値は、4.6回で、4回に達していない教員が15名いる。	・授業参観に行けない教員に対して、行きやすい雰囲気作りと校務の軽減を図る。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

学習指導	資格取得の奨励	各種検定の1級合格者延べ50人以上を目標に、個別指導等の徹底や資格取得への意識を高めることにより、上級資格取得の奨励に努める。基礎・基本、実務に役立つ2・3級の合格者を増やす。 A:50人以上、B:40～50人、C:30～40人 D:20～30人、E:20人未満	A	1級の合格者は、商業関係で17名、家庭科関係の合格者が47名となり、目標を達成することができた。商業、家庭科共に継続的な個別指導を充実させ、生徒の合格意識を高めることができた。	・資格取得は、知識・技術を高めるだけでなく、視野を広げ、粘り強さも身に付くため、知的好奇心を持って取り組ませる。上級資格取得は、進路実現にもつながることから、今後も資格取得に取り組む生徒数の増加を図る。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒の変化の兆候を早めに把握し、個に応じたきめ細かな生活指導と家庭との連携によって、 <u>5分前登校指導を徹底し、全校出席率98%以上を維持する。</u> A:98%以上、B:96～98%、C:94～96% D:92～94%、E:92%未満	B	全校出席率は96.8%で目標を達成できなかった。	・1、2学期ともに欠席・遅刻等が増加している。個に応じた生活指導をきめ細かく行うとともに、長期休業の過ごし方を含め、より高い意識を持って学校生活に取り組ませる指導が必要である。
	生徒理解の推進	生徒一人当たり年間4回以上の面接指導を通して、生徒理解と指導に努める。 A:4回以上、B:3回、C:2回 D:1回、E:0回	A	年間3回の定期的な面接週間を行っている。学年団を中心として、適宜個別に担任が面談を実施し適時、適切に生徒に向き合い、生徒理解に努めることができた。	・次年度についても、担任・学年団を中心として継続して面接指導を行う中で、生徒との関わりをより深めていく。
	環境整備への主体的な取組	環境美化への意識を高めさせ、清掃時間だけでなく、普段から校内美化に努める。地域行事にも主体的・積極的に取り組む態度を養い、奉仕の精神を育む。	B	生徒の環境美化への意識をさらに高めるため、清掃時は5分前に担当場所へ移動することや清掃後は一度集合するように呼び掛けた。地域の環境美化行事には、ボランティアとして参加してくれる有志生徒が増えてきたが定着するにはまだまだである。	・年2回のクリーンキャンペーンをはじめとし、美化委員会から全校生徒への環境美化を呼び掛けるなど、今後も、各クラスの美化委員が中心となった取組となるように工夫し、奉仕の精神で活動できる生徒を増やす。
	ルール厳守とマナー向上	交通安全指導において、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を行う。交通ルールを遵守し、マナーを向上する態度を育成し、交通事故ゼロを達成する。	B	登下校中、休日中の交通事故は発生していないが、転倒などの怪我が発生した。また、事故に繋がるかもしれない軽率な行動もあったので、通学時だけでなく生活の中でのヘルメットの着用、ながらスマホなど指導が必要である。	・開校日だけでなく、休日中もヘルメットの着用を促し、命の大切さについての指導を継続して粘り強く行うとともに、地域からの指摘に対しても巡視回数を増やす等の対応を継続していく。
進路指導	個に応じた進路保障	学年団と進路課が連携をとりながら、1年次から進路意識を高める指導を継続的にを行い、充実した家庭学習に努めさせる。 <u>学力の向上を図りつつ</u> 多様な入試（小論文、集団討論、プレゼンテーション等）に対応した力を育成することで、進路満足度100%を目指す。 A:100%、B:90～100%、C:80～90% D:70～80%、E:70%未満	B	就職、進学が多様なニーズに対応するため、それぞれにおいてタイムリーな情報提供に努め、3年生進路説明会、分野別進路説明会、1・2年生進路説明会等を実施した。特に進路が決定する3年担任団との連携を密にすることで、スムーズな進路決定につなげることができた。	・低学年での志望校検討会を充実させるとともに、個別指導により学力向上のためのきめ細かなサポートを行う。
	進路指導力の向上	学校説明会等に参加するなど、入試改革や学部・学科変更等の情報収集を行い、校内のネットワークシステムや教科会、学年会等を通して全体で共有する。	B	校外での研修会に参加した教員による報告や若手教員による模試分析・報告、大学入学共通テスト出願検討会・勉強会において教員の意識向上に努めた。	・学年での進路検討会や進路についての全体研修を充実させることで、教員のさらなる意識向上に努める。
	キャリア教育の推進	<u>キャリアパスポート、2年時のインターンシップや2・3年時の就職指導、また、就職フェアへの参加、デジタルサイネージの活用等</u> を通し、生徒が自ら考え、行動する力を育む。2年次からのコース選択に合わせて、それぞれの特長を生かせる指導を行う。	A	西条市就職フェアへの参加や3年生就職セミナーの実施等により、就職希望者19名全員が就職できた。2年生ではインターンシップ、西条市就職フェアへの参加、1年生は公務員模試の実施等で意識を高めることができた。	・就職活動支援員の配置を要請し、職場開拓と職業指導の充実に努め、早期の就職内定を目指す。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

特別活動	部活動の充実	運動部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。県総体出場70人以上を達成する。 A:70以上、B:55～70人、C:40～55人 D:30～40人、E:30人未満	A	今年度は77名が県総体に出場し目標を達成することができた。その中で、バレーボール部男子は四国大会に出場し、ベスト8に進出した。野球部も夏の大会でベスト4に進出するなど充実した活動が行われている。	・来年度から、県総体地区予選がなくなるため、目標の設定を検討する必要がある。種目によって部員数の差が大きく、単独で大会に参加できない部もある。継続して活動する意義を伝えていく。
		文化部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合文化祭等において、3つ以上の部と総計20人以上の参加を目指す。 A:3つ以上の部で20人以上参加 B:3つ以上の部で15人以上の参加 C:2つの部で15人以上の参加 D:2つの部で15人未満の参加 E:D評価に届かない場合	A	愛媛県高等学校総合文化祭において3つの部で27名の参加となった。吹奏楽部がマーチングコンテストで四国大会に出場するなど活躍した。	・目標は達成しているが、文化部においては、運動部よりも途中で退部する生徒が多いように感じる。引き続き3年間継続して活動することを推奨していく。
	生徒会活動・家庭クラブ活動、委員会活動の活性化	生徒の自主的な計画・運営による生徒会活動、委員会活動、家庭クラブ活動をそれぞれ月1回以上実施し、更なる内容の向上を目指す。 活動を通して、お互いのよさを尊重し生かし合って協働する力を養う。	B	2学期クラスマッチでは生徒会を中心に計画、運営を行うことができた。委員会活動、家庭クラブ活動については、概ね目標を達成できている。	・来年度は、1学期から生徒会が自主的にクラスマッチの計画、運営ができるようにサポートする。委員会活動においては、月1回を目標に実施する。
	自主的な奉仕活動	年間5回以上の奉仕活動、地域清掃活動を目指し、豊かな人間性の育成を目指す。生徒への各種ボランティア活動案内を広めると同時に、ボランティア体験の発表会等も行うことで、生徒全体の参加意識を高める。また、生徒全体の参加意識を高め、地域に貢献しようとする態度を養う。 A:5回以上、B:4回、C:3回 D:1～2回、E:0回	A	竹林整備、古民家や墓地の清掃などの活動が有志によって行われた。恒例の行事として浸透しているものもあり、部活動単位での活動もあった。	・さまざまな取組があるため、どのような活動が行われているかを取りまとめ、今後も継続的に活動できるように積極的な参加を呼び掛ける。
同和・人権・教育	人権・同和問題学習の積極的推進	人権・同和教育ホームルーム活動を充実させるとともに、人権課題に対する生徒・保護者への啓発に努める。現地研修会や市民の集いなどの対外的な活動へ積極的に参加し、生徒が主体的に人権問題を解消する実践力を身に付けさせる。	B	市民の集いや高校生集会にも参加し、人権標語や人権ポスターの展示、道前育成園とのクッキー販売も実施できた。 PTA広報誌「きらり」も継続発行している。	・人権・同和教育訪問の会場校として役割を概ね終えることができた。今後も地道な啓発活動を通して、地域の協力を得られるようにする。
広報・地域協働	地域に開かれた学校づくりの推進	「学校案内」や「ライフデザインだより」等の発行物で必要情報を伝え、ホームページでよりタイムリーな情報発信を行う。 学校行事や校外活動において、生徒の活躍の場や主体的に活動できる場面を増やし、より地域に開かれた教育活動を目指す。	B	「PTAだより」等の発行物で情報を的確に発信することができた。ホームページも随時更新、継続ができており、行事等に関する事前の広報や活動報告においても情報発信ができた。 地元の古民家見学会など、数多くの地域に開かれた取組が行われた。	・今後も、地域の「歴史・文化・教育」について知り、郷土を誇りに思い、「歴史・文化・教育」を柱とした地域資源の活用を目指した人材育成を行う。また、それらに関する発行物やホームページを通じて、よりタイムリーな情報発信を図り、地元の小・中学校との交流の促進を図るなど地域に開かれた学校づくりに邁進する。
	地域に根ざした特色ある学校づくりの推進	PTA・同窓会や地域の諸団体と協力し、「総合的な探究の時間」や課題研究で、地域人材を活用した体験学習を実施する。 地域の「歴史、文化、教育」を知ることで、地域を誇りに思い、地域に貢献できる人材育成の研究を行い、地域に根差した教育を展開する。 SDGsの観点を踏まえた授業や地域と協働した地域貢献活動等を積極的に実施し、特色ある学校づくりに努める。	B	ユース環境活動発表大会四国大会に出場するなど、SDGsの観点を踏まえた課題研究での取組や地域と協働した地域貢献活動等を積極的に推進することができている。	・課題研究の兎之山実習など、地域文化発信の拠点として広く公開するとともに、積極的に社会と繋がる活動を行う。また、持続可能な開発目標の観点から、竹林整備活動を発展させた取組への挑戦（竹を使う活動等）、段ボールコンポストをはじめとした商品開発やイベント参加など、生徒が主体的に活躍できる場を提供する。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

業務改善	適切な勤務時間	会議等の見直しやＩＣＴ導入で業務の効率化・平準化を図ることにより、勤務時間の適正化に努めるとともに、 <u>年休取得やテレワーク、早出・遅出勤務等の活用を促すことにより、ワーク・ライフ・バランスの充実を推進する。</u>	B	職員朝礼の回数を週３回（月・水・金）に削減することで、朝の時間を有効に活用し、また、全校集会等にゆとりを持って臨むことができた。長期休業中のテレワーク活用、早出・遅出の利用者の増加が見られた。	・引き続き、年休取得やテレワーク、早出・遅出勤務等の活用を促すことにより、ワーク・ライフ・バランスの充実を推進する。デジタル化（メッセージ機能や掲示板）を促進することで、会議等の時間短縮に努めていく。
	職場環境の整備	月１回の衛生委員会において、教職員の健康や学校安全に関する情報共有を密に行う。 <u>職場の整理整頓等により、より働きやすい環境作りを目指す。</u>	B	衛生委員会や面談を通して、教職員と情報共有を図った。また、情報セキュリティにおける環境整備について研修を行い、危機管理意識の向上に努めた。	・長寿命化改修工事の関係で、職員室・準備室等の移動があることを踏まえ、資料の整理・整頓を確実にし、情報管理の徹底を図る。引き続き、安全安心な学校作りに努める。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった Ｂ：かなりの成果があった Ｃ：一応の成果があった Ｄ：あまり成果がなかった Ｅ：成果がなかった）とする。